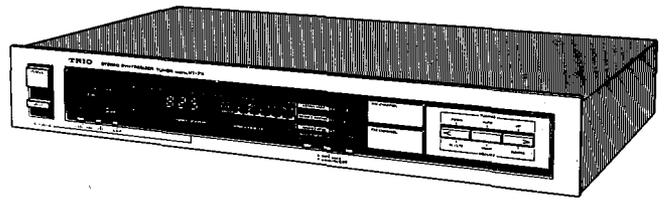


シンセサイザー AM-FM ステレオ チューナー

KT-7X

取扱説明書



TRIO

KT-7X

お買いあげいただき、ありがとうございます。

ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるため、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使い方により末永くご愛用ください。

なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴い破損等の不具合がありましたら、お早めに購入店、または最寄りのトリオ商事各営業所、サービス・センターへお申しつけください。

アフターサービスについて

1. **保証書**—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。
 2. **保証期間**—お買上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはトリオ営業所が無料修理いたします。
 3. **保証期間経過後の修理**についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。
 4. 本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後**8年間**です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。
 5. なおアフターサービスについて、ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。
- ※ ダンボール箱は、アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために、是非保管しご利用ください。

付属品について

本機には、下記の部品が付属されていますのでご確認ください。

T型FM アンテナ	1本
両ピンコード	1本
75Ω/300Ω アンテナアダプター	1個
乾電池(SUM-3)	3個

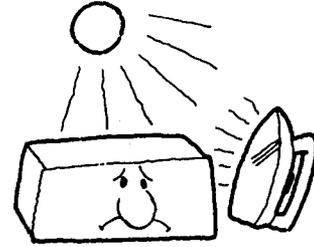
目次

ご使用の前に	2
接続のしかた	4
各部の名称と動作説明	7
時計の合わせかた	8
チューニングのしかた	9
タイマーの使用方法	13
パネル表示について	20
故障と思われる症状ですが	21
定 格	22

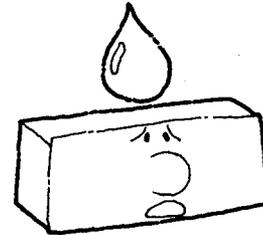
ご使用の前に

設置上のご注意

直射日光の当る所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。



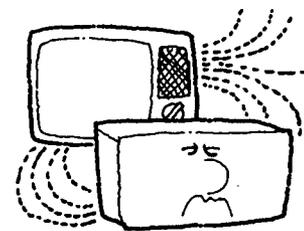
花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上には置かないでください。また、湿気の多い所はさけてください。



不安定な棚などはさけ、ホコリ、振動の少ない水平な場所にセッティングしてください。



雑音をできるだけ少くするために、テレビの近くや磁力の発生するものからは遠ざけてください。



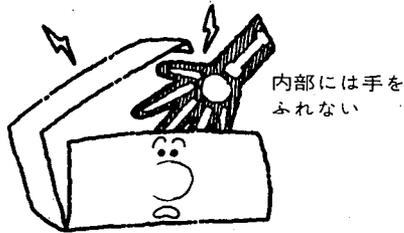
安全にお使いいただくために

本機は、交流100V専用です。クーラーなど単相200Vでは使えません。



保守とご注意

ケースなどをはずし、内部にふれることはさけてください。内部に手を入れると感電、故障の原因となることがあります。



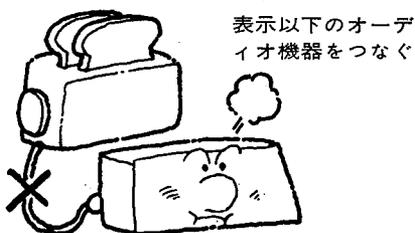
電源プラグの抜き差しは、ぬれた手で行ないますと感電するおそれがありますのでご注意ください。抜くときは、プラグを持ってください。



背面の電源コンセントにヘアピン、縫い針などの金属物が入ると故障や感電の原因になります。とくにお子様へのご注意をお願いします。



背面パネルの電源コンセントは容量より多い機器を接続しないでください。アイロン、トースターなどは絶対に接続しないでください。

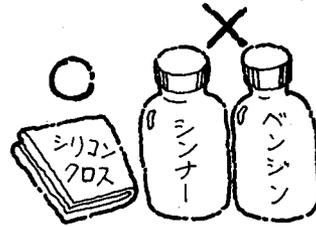


電源コードを強くひっぱったり、無理に折りまげたり、継ぎ足したりすることは、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでやめましょう。



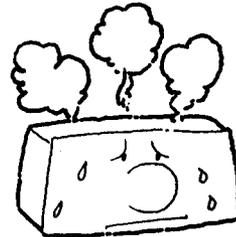
セットのお手入れ

前面パネル、ケースなど汚れたときは、シリコンクロスかやわらかい布でからぶさします。シンナー、ベンジンなどの使用は変色の原因になることがあります。



異常にお気づきのさいは

煙がでている、変な匂いがするなどのときは、電源スイッチをすばやくOFFにして電源コードを抜いてください。そのうえで速かに購入店または最寄りのトリオサービスセンター、営業所へご連絡ください。



ステレオ音のエチケット

良い音、楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快よい生活環境を守りましょう。

接続のしかた FM専用アンテナを必ず接続してください。

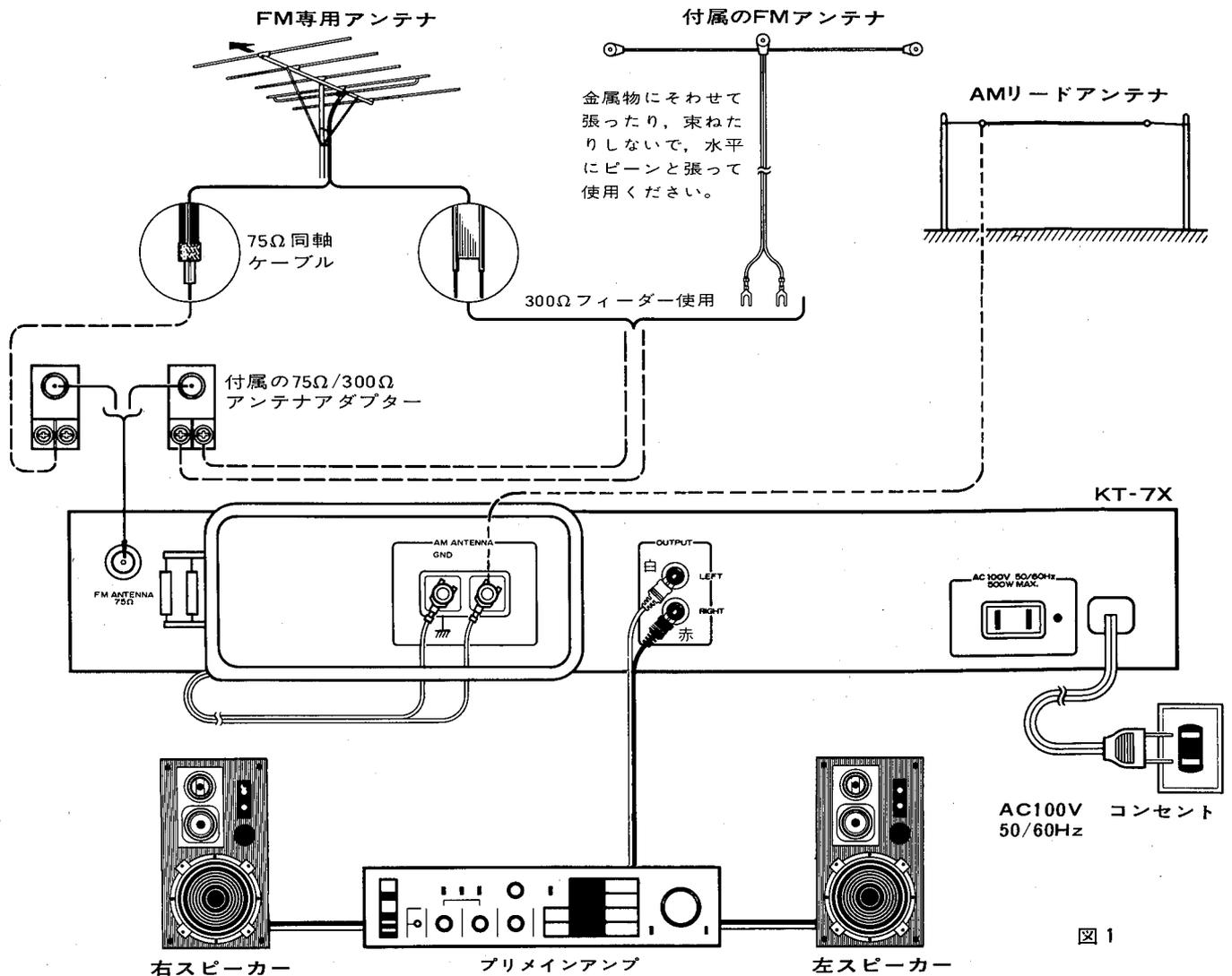


図 1

乾電池の入れかた

PRESETステーションに記憶された放送局の周波数は、電源コードを抜いたり、停電などで電源が切れますと、消去されます。このため本機では一時的に電源が切れても、プリセット局を消去させないようにバックアップ用電池で対応しています。プリセットするまえに、付属の単3乾電池(SUM-3またはUM-3) 3個を、本機底面の乾電池ボックスへ、表示されている極性に従って装填してください。

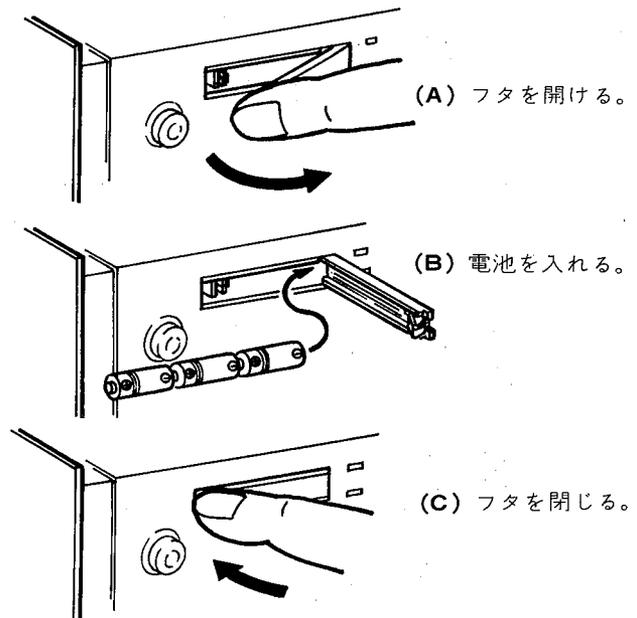
注

1. この乾電池は、プリセット局の記憶保持用で、本機の電源用ではありません。
2. 極性をまちがって装填しますと、故障の原因となりますので、充分にご注意ください。また、ニッケルカドミニウム乾電池(充電可能な乾電池)またはアルカリ乾電池は、誤動作の原因となりますので、ご使用にならないでください。

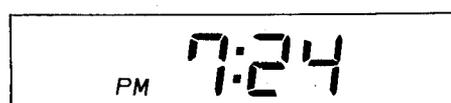
乾電池の取り扱いについて

乾電池の液もれや破裂を防ぐために、次の事項を守ってください。

1. 極性(+, -)をまちがって取り付けないでください。
2. 通常の電池とアルカリ電池を同時に使用しないでください。
3. 乾電池を分解したり、加熱しないでください。



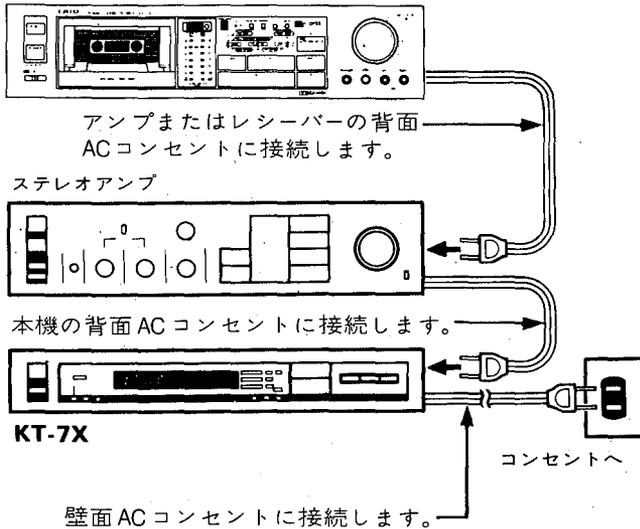
電池が消耗しますと、図のようにAM7:24の表示全体が点滅します。このときは新しい電池と交換してください。



ディスプレイ表示

タイマー操作電源システムの接続

KX-7X



外部用電源コンセント

SWITCHED (容量500Wまで): アンプまたはレーザー、テープデッキ、などのプラグを差込むことができます。それらの機器の電源スイッチをONにしておけば、本機の電源スイッチと連動しON-OFFしますので、便利です。

AC電源の極性について

本機のAC電源コードの片側には、白線の極性表示が施されています。また背面にACアウトレットのあるものには、(・)マークがついています。接続するときは、これら白線マークと(・)マークを合わせることで、電源の極性が統一され、ハム防止に有利なばかりでなく音質向上の一助にもなりますのでお試しください。

なお、従来通り極性に獲われず接続されても結構です。

プリアンプの接続

本機の OUTPUT 端子とプリアンプのチューナー入力端子を、付属の両ピンコードでLEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続します。

FMアンテナについて

FM放送の電波は、テレビと同じ超短波を使用しており、光のように直進する性質をもっています。そのため地形によっては、放送局の近くでも電波が弱くなります。

FM放送の最大の特長であるよい音質で、放送を楽しむため、また本機の性能をフルに発揮させるためには、FMアンテナの選び方、本機とFM専用アンテナの接続に使うケーブルの選び方、配線のしかた、設置場所が非常に重要な要素になります。

お住いの条件にあわせ、電波の強さ、周囲の状況を考慮し、最適なアンテナ選択と設置を行なってください。

FMアンテナの接続

FM室内アンテナの接続

都市部など放送局の送信アンテナから近く、木造の建物の中で電波が強く、マルチパスの影響がない地域では、付属のT型FMアンテナも使えます。しかし、室内アンテナは、事物の動きで、アンテナ端子への入力も変化しやすく、安定な受信は期待できないこともありますので、付属のFMアンテナは、屋外FM専用アンテナを設置するまでの間、一時的にご利用ください。

FM専用屋外アンテナについて

都市部など放送局の送信アンテナから近く、ビルの谷間の地域、山に囲まれている地域などでは、反射波により音が歪んだり、ステレオのセパレーションが悪くなったりします。また、送信アンテナから遠距離の地域、鉄筋コンクリートの建物の中では、電波が弱くなります。

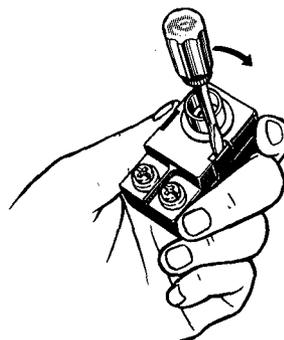
このような条件では、必ずFM専用屋外アンテナをお使いください。3素子、5素子、7素子などが標準的で、素子数が増せば利得が高くなり、指向性もすどくなってきます。何素子がよいかは、お住いの地域にあわせて、FM専用アンテナ販売店とご相談ください。

FM専用アンテナの接続

アンテナ端子に、FM専用アンテナを接続するには、75Ω同軸ケーブルか300Ωフィーダー線を使います。本機の性能をフルに発揮させるためには、75Ω同軸ケーブル(3C-2Vか5C-2V)をおすすめします。

75Ω同軸ケーブルを使うとき

1. 付属の75Ω/300Ωアンテナアダプターをあけます(図2)。
2. 75Ω同軸ケーブルを図3のように処理し、75Ω/300Ωアンテナアダプターに取付けます。
3. 本機背面のFM 75Ω端子に差込みます。

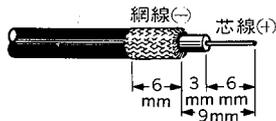


図のような要領で小型のドライバーなどであけられます。なお、カバー側の内部にあるシールドケースをはずさないでください。

図2 75Ω/300Ωアンテナアダプター

1. 同軸ケーブルを図のように加工します。

3C-2Vの場合は外被をむいて
網線を外被に折りかえす。



2. 加工した同軸ケーブルを、下図のように付属の
同軸プラグに取り付けます。

3C-2Vの場合

芯線をここ
に差込む

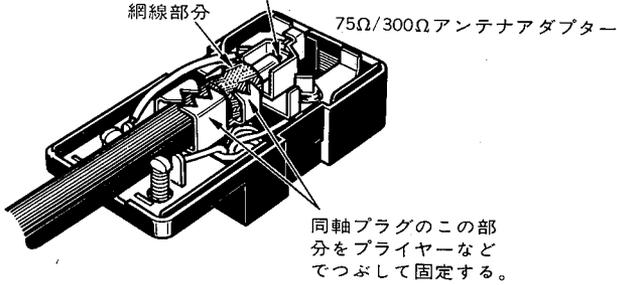


図3 75Ω/300Ωアンテナアダプターと同軸ケーブルの接続

300Ωフィーダーを使うとき

付属の75Ω/300Ωアンテナアダプター(75Ω マッチングトランス内蔵)にFM室内アンテナまたは、屋外アンテナからの300Ωフィーダー線を接続し、FM 75Ω端子に差込みます(図1参照)。

FM専用アンテナをたてるとき

FM雑音の中で、悩みの多いものにイグニッションノイズ(自動車のエンジンより出る雑音)があります。この雑音をさけるために、図4のように、アンテナ設置を、道路からできるだけ離れた所にたててください。

送信アンテナからごく近い所で、FM専用アンテナをたてますと電波が強すぎて、音がひずむことがあります。これは故障ではありません。アンテナを室内アンテナにかえるか、またはお近くのトリオ営業所にご相談ください。

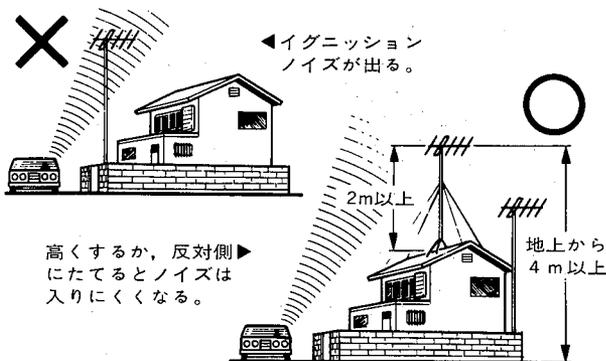


図4 FM専用アンテナの設置位置

AMアンテナの接続

AM専用ループアンテナ

本機には、AM専用のループアンテナが背面についています。図5のように左右にまわし、受信状態が一番よくなる方向をさがしてください。なお、本機をラックや棚などに設置して使う場合、背面パネルとうしろの壁との間にスペースがないときは、図5のようにループアンテナを取りはずし、受信状態の良い方向をみつけ、壁などにかけてご使用ください。

この場合、本機の設置場所により、ループアンテナのリード線が不足するときは、リード線を追加して、受信状態の最もよい場所、方向に設置します。

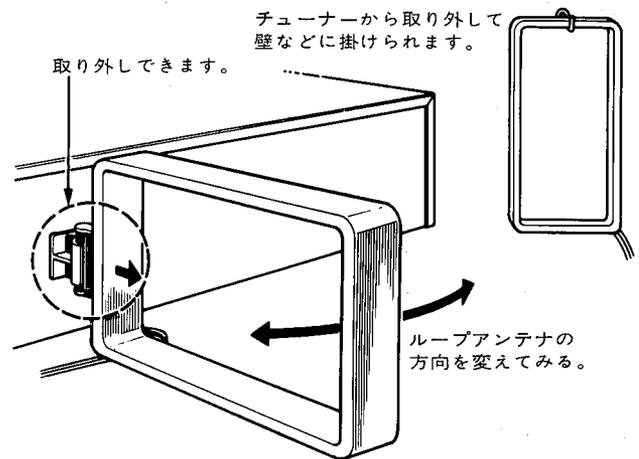


図5 AMループアンテナの調整

AMリードアンテナ

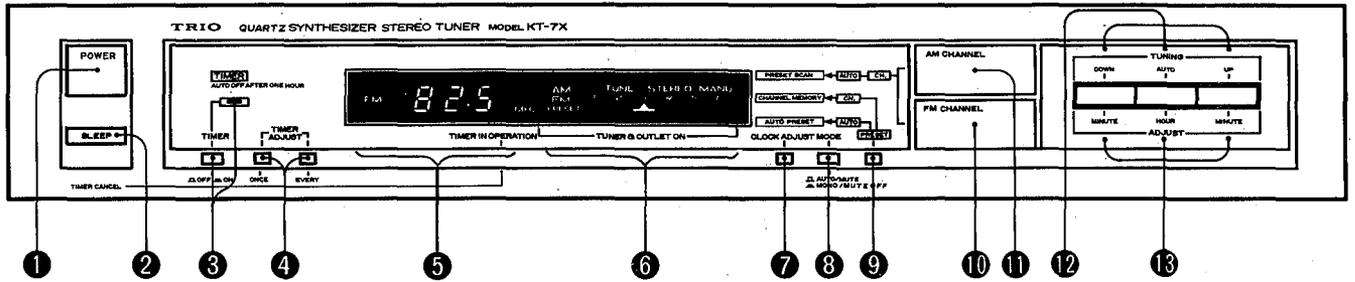
ループアンテナを設置しても、受信状態が悪いときは、図1のようにAM端子にビニール被覆線を6~15m屋外にはってください。このとき必ずループアンテナも接続したままにしておきます。

アースの接続

アースは、GND端子につながります。アースはしなくても放送受信はできますが、雑音除去と安全性などの点から接続されることをおすすめします。ガス管には、アース線を絶対に接続しないでください。

各部の名称と動作説明

■名称の番号は図と対応しています。



① POWER スイッチ

手動で電源をON-OFFするときに使用します。

② SLEEP スイッチ

1時間タイマーの実行を手動で行うとき使用します。タイマー(SLEEP, ONCE, またはEVERY)動作中に、このスイッチを押しますと、タイマー動作が解除されます。

③ TIMER スイッチ

ONCEまたはEVERYタイマーを実行させるかさせないかを決定するスイッチです。ONの位置ではタイマーが実行され、OFFの位置では実行されません。タイマーが動作中は、このスイッチは無効になります。

④ TIMER ADJUST スイッチ

タイマーの始動時刻を設定するスイッチです。また設定時刻を確認するとき使用します。

ONCE : 1回だけのタイマーです。

EVERY : 毎日繰り返すタイマーです。

⑤ タイマー/フリケシーディスプレイ

現時刻、タイマー設定時刻や周波数の表示をします。現時刻表示が他の表示より優先しますので、ディスプレイがどのような表示でも、5秒後には自動的に現時刻表示に戻ります。タイマー動作中は、時刻表示の右脇の(-)印が点滅します。

⑥ チューニングディスプレイ

手動やタイマー動作でチューナーに電源が入りますと、このディスプレイが点灯します。表示は、FM/AM1~6のプリセットチャンネル、TUNE、STEREO、MANUです。

⑦ CLOCK ADJUST スイッチ

現時刻を合わせるときに使用します。タイマー/フリケシーディスプレイ全体が点滅中にこのスイッチを押しますと、点滅が停止します。また、ディスプレイが他の表示中にこのスイッチを押しますと、ただちに現時刻表示に切り替わります。

⑧ MODE スイッチ

AUTO/MUTE : FM受信時では、ステレオ放送を受信するときの位置です。FMモノラル放送のときは、自動的にモノラル受信となります。AM受信時ではミュートがかかっている状態となります。

電波の弱い局を受信するときは、MONOにしませんと受信できない場合があります。

MONO/MUTE OFF : FMステレオ放送をモノラルで受信するときの位置です。AUTO/MUTEの位置で、雑音が多い場合や受信電波が弱いときは、この位置でおきください。AM受信時では、ミュートがかかきません。

⑨ PRESET スイッチ

AM/FM放送局を6局までプリセットするとき使用します。ディスプレイが現時刻表示のとき、このスイッチを押すと受信中の周波数が確認できます。

⑩ FM CHANNEL キー

FM受信に切替えるとき使用します。また、1~6までのFMプリセット局を呼び出すとき使用します。

⑪ AM CHANNEL キー

AM受信に切替えるとき使用します。また、1~6までのAMプリセット局を呼び出すとき使用します。

⑫ TUNING キー

マニュアルやオートでAM/FMの選局を行うとき使用します。

- **DOWN** : マニュアル選局のとき使用します。1回押すごとに周波数が1ステップ下ります。また押し続けると、ディスプレイの周波数が一定速度で減少します。
- **UP** : マニュアル選局のとき使用します。動作はDOWNと逆になります。
- **AUTO** : オート選局するとき使用します。自動的に周波数がスキャンして、受信可能な放送局があるとストップします。

⑬ ADJUST キー

TIMER ADJUST(ONCEまたはEVERY)やCLOCK ADJUSTスイッチを押している間、時刻調節機能となります。

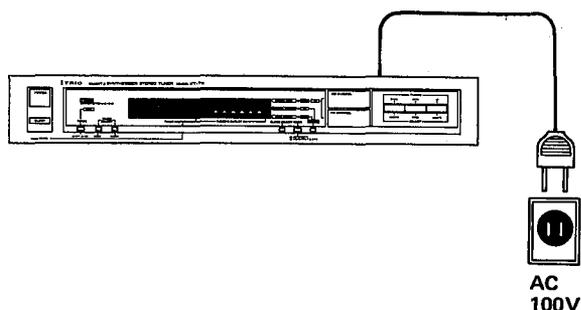
- **MINUTE/DOWN** : 分単位を設定するキーです。1度押すごとに分単位が減少します。また押し続けると分表示が一定の速度で減少します。
- **MINUTE/UP** : 分単位を設定するキーです。MINUTE/DOWNの項とは逆に分単位が増加します。
- **HOUR** : 時間単位を設定するキーです。1度押すごとに時間単位が繰り上げられます。押し続けると一定の速度で時間表示が増加します。

ご注意 :

HOURキーを押しますと、分表示を00に戻します。したがって時刻設定はHOUR, MINUTEの順にキーを操作します。

時計の合わせかた

初期設定手順

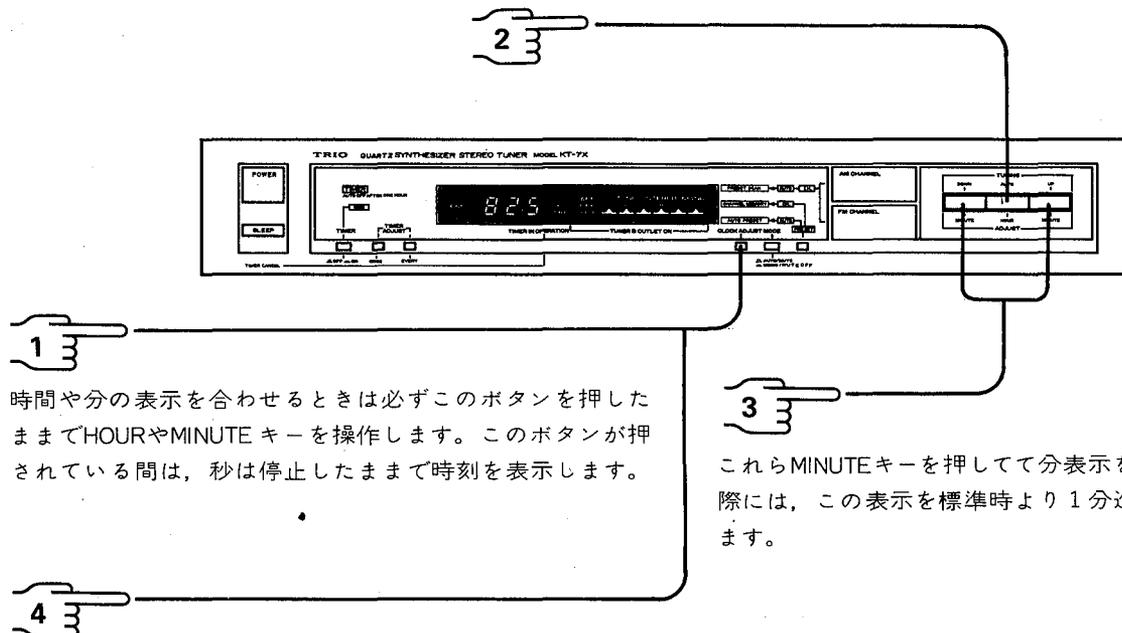


上図のタイマー／フリクエンシーディスプレイ全体が点滅して、時刻設定がされていないことを示します。

最初に電源プラグを差込みますと、右図のようなディスプレイになります。メモリーバックアップバッテリーを交換したときも同じです。このときは全てのメモリーが消えますので、同じ要領で設定を行います。

例：AM9：45に合わせるには

押してAM9：00に合わせます。



1 時間や分の表示を合わせるときは必ずこのボタンを押したままでHOURやMINUTEキーを操作します。このボタンが押されている間は、秒は停止したままで時刻を表示します。

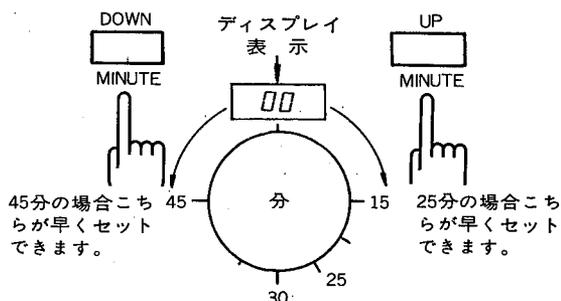
3 これらMINUTEキーを押して分表示を45に合わせます。実際には、この表示を標準時より1分進めて設定をしておきます。

4 テレホンやラジオ等の時報AM9：45に合わせて手を離しますと、AM9：45 00秒より時計が始動します。

メモ MINUTEキーの使い分け

左側MINUTEキー：押すとディスプレイの分表示から反時計方向に減算表示します。

右側MINUTEキー：押すとディスプレイの分表示から時計方向に加算表示します。

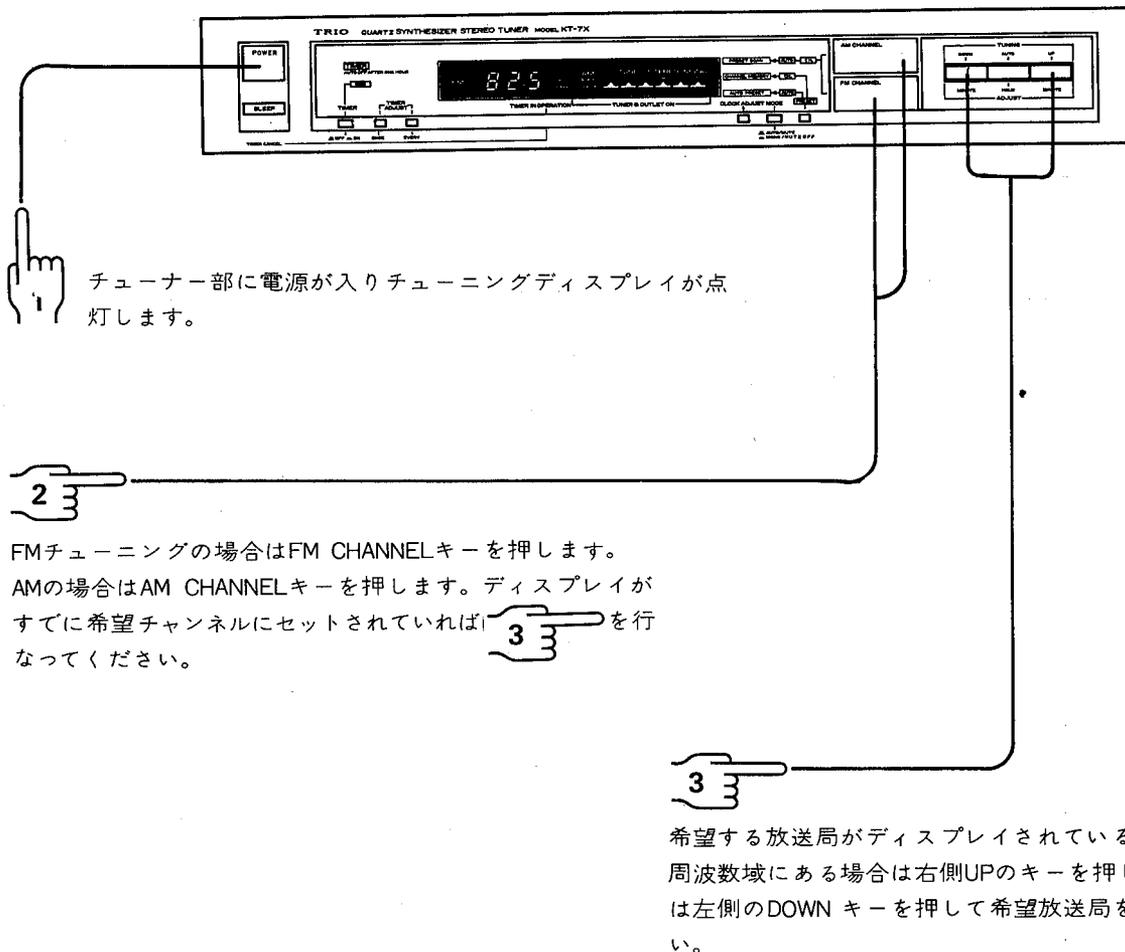


チューニング(選局)のしかた

3つのチューニング方法があります。

- 1) マニュアル(手動)チューニング(自動チューニングで受信できない弱い放送をキャッチできる。)
- 2) オート(自動)チューニング(プリセット以外の放送受信はこの機能が便利です。)
- 3) プリセットチューニング(おききになりたい主な放送局をFM/AMそれぞれ6局までプリセット可能。)

● マニュアルチューニング (FM/AM)



1 チューナー部に電源が入りチューニングディスプレイが点灯します。

2 FMチューニングの場合はFM CHANNELキーを押します。AMの場合はAM CHANNELキーを押します。ディスプレイがすでに希望チャンネルにセットされていれば3を行ってください。

3 希望する放送局がディスプレイされている周波数より高い周波数域にある場合は右側UPのキーを押します。逆の場合は左側のDOWNキーを押して希望放送局を受信してください。



メモ 周波数間隔について

マニュアルチューニングのときUPまたはDOWNキーを1度押すごとに1ステップ周波数が移動します。このステップ周波数は、

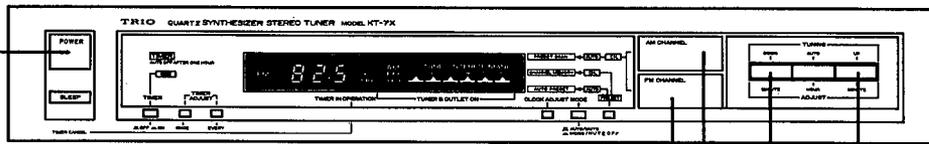
- AM 1ステップ：9kHz間隔
- FM 1ステップ：100kHz間隔



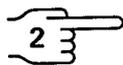
メモ UP/DOWNキーの動作

これらのキーを押し続けると2~3秒後には、ディスプレイの周波数表示が高速でそれぞれ上限の周波数に向ってまたは下限の周波数に向って走査されます。

●オート(自動)チューニング (FM/AM)

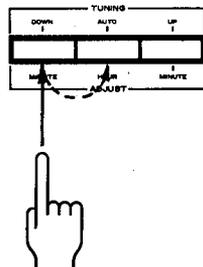
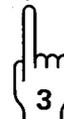


1 チューナー部に電源が入りチューニングディスプレイが点灯します。

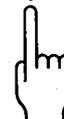
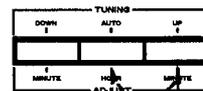


FMチューニングの場合はFM CHANNELキーを押します。AMの場合はAM CHANNELキーを押します。ディスプレイがすでに希望チャンネルにセットされていれば を行ってください。

表示周波数より低い周波数域にある放送局を自動走査するときは、図のようにDOWNキーを押して次にAUTOキーを押します。



表示周波数より高い周波数域にある放送局を自動走査するときは、図のようにUPキーを押して次にAUTOキーを押します。



自動走査方向の決定

チューニング用のAUTOキーを押すと自動的に放送局を走査するのですが、その方向付けをするのがUPまたはDOWNキーです。

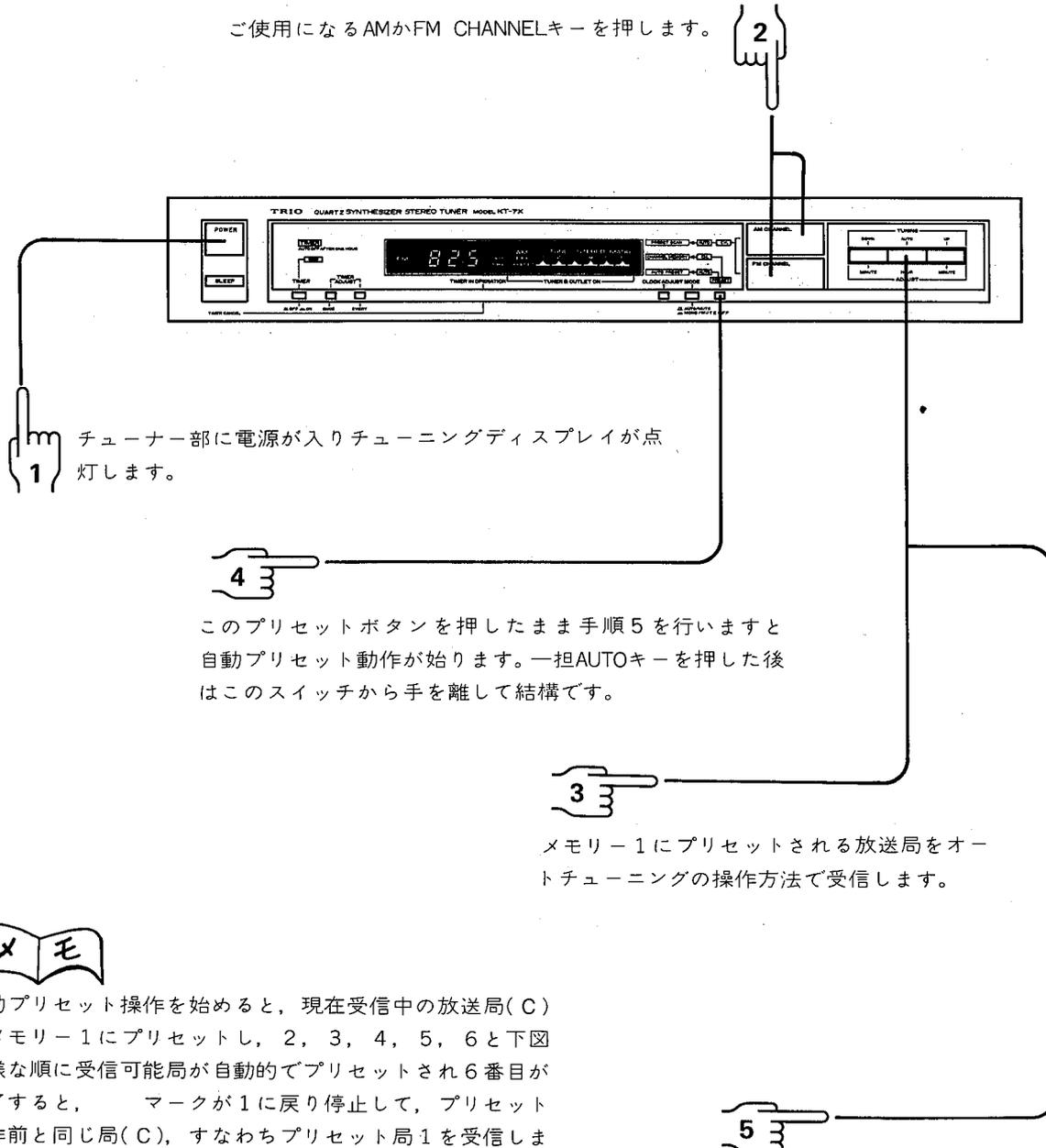
表示周波数より高い方向ではUPキーを押して次にAUTOキー、逆の場合はDOWNキーを押して、AUTOキーを押すとそれぞれの走査方向が決定付けられます。

●プリセットチューニング (FM/AM)

プリセットチューニングを行うには、あらかじめ放送局をメモリー(プリセット)しておく必要があります。その方法としては、下記の2つがあります。

- 1) 自動プリセットのしかた(希望の有無に関係なく、FM/AMがそれぞれ6局連続でメモリーされます。)
- 2) 手動プリセットのしかた(希望する局の任意のチャンネルにFM/AMをそれぞれ6局までメモリーできます。)

ご使用になるAMかFM CHANNELキーを押します。



1) チューナー部に電源が入りチューニングディスプレイが点灯します。

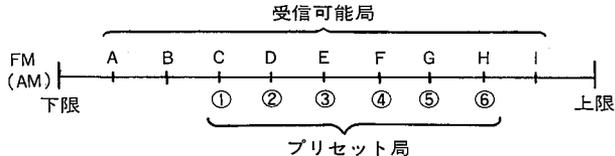
4) このプリセットボタンを押したまま手順5を行いますと自動プリセット動作が始ります。一旦AUTOキーを押した後はこのスイッチから手を離して結構です。

3) メモリー1にプリセットされる放送局をオートチューニングの操作方法で受信します。

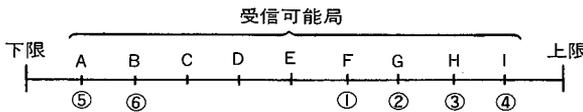
5) 一度押すだけで自動プリセット機能が開始されます。



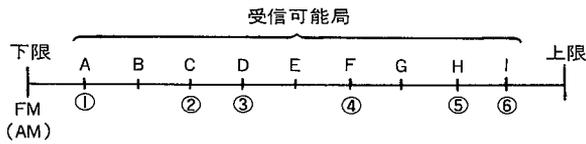
自動プリセット操作を始めると、現在受信中の放送局(C)をメモリー1にプリセットし、2, 3, 4, 5, 6と下図の様な順に受信可能局が自動的にプリセットされ6番目が完了すると、マークが1に戻り停止して、プリセット操作前と同じ局(C), すなわちプリセット局1を受信します。



また、放送局(F)を受信中にオートプリセット操作を行うと、下図のようにプリセットされます。



2) 手動プリセットのしかた

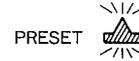


数字はプリセットしようとする放送局を示しています。

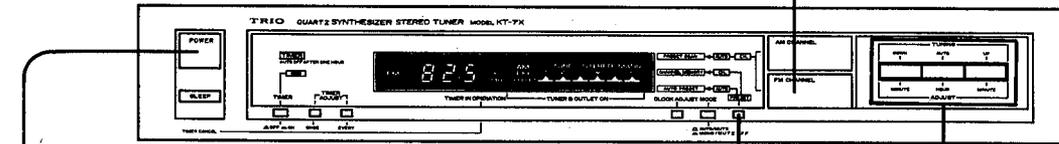
2) プリセットしようとするチャンネルFM CHANNELのキーを押します。すでにFMにセッされていれば、手順3を行います。

5) キーを押してプリセットマーカー(▲)を1に合わせます。

FM 1 2 3 4 5 6



プリセットされるとマーカーが点滅します。



1) チューナー部に電源が入りチューナーディスプレイが点灯します。

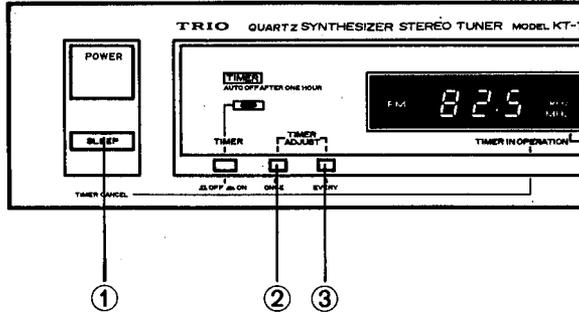
4) このキーを押したまま手順 5) を行ってください。

6) オートチューニング 3) の要領で希望局 Aを受信します。

キーから手を離します。これで1へのプリセットが終了しました。

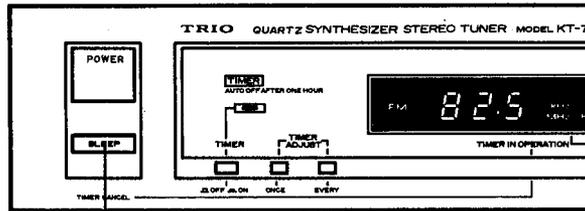
C, D, F, H, Iの放送局をプリセットメモリー2, 3, 4, 5, 6にプリセットするには、同じ要領で手順3~6を繰り返します。

タイマーの使用法

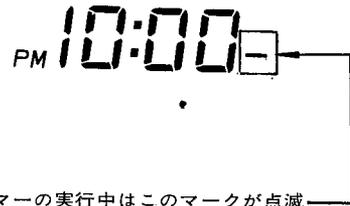


☒のように3つのタイマーがあります。実行優先順位は、①、②、③の通りSLEEP、ONCE、EVERYの順です。これらのタイマーが実行され、電源が入ると、1時間後には自動的に電源が切れます。

SLEEPタイマーについて



タイマーディスプレイ



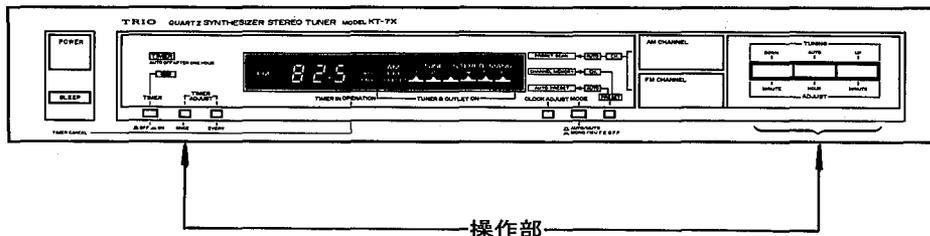
SLEEPタイマーの実行中はこのマークが点滅

- 電源が入っていないときこのスイッチを押すと……電源が入り1時間後には切れます。
- 電源が入っているときこのスイッチを押すと……1時間後には電源が切れます。
- 他のタイマーONCEまたはEVERYの実行中にこのスイッチを押すと……ONCEまたはEVERYの実行を解除します。
- ONCEまたはEVERYの実行中にこのスイッチを2回押しますと……ONCEまたはEVERYの実行を解除し、SLEEPの実行に切替えます。
- SLEEPの実行中にこのスイッチを押すと……SLEEPの実行が解除されます。



ONCE タイマーについて

ONCE タイマーの設定のしかた (例: AM10:30)



設定操作手順

①

押しながら手順②、③を行います。

②

押して時刻を合わせます。

③

または 押して分を合わせます。

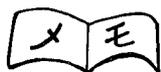
④ ONCEスイッチから手を離します。

これでONCEの設定が終了です。同じ要領でご使用になるONCEタイマーを設定してください。

ONCEタイマーの実行

押ししてONにします。

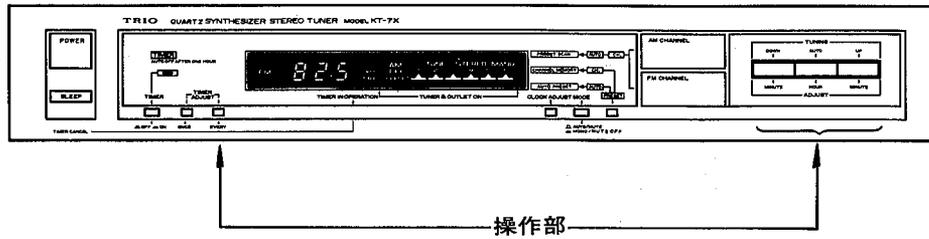
ディスプレイ



これを忘れますと、ONCEタイマーが実行されません。

EVERYタイマーについて

EVERYタイマーの設定（例：AM 6：30）



設定操作手順

- ①

押しながら手順②、③を行います。
- ②

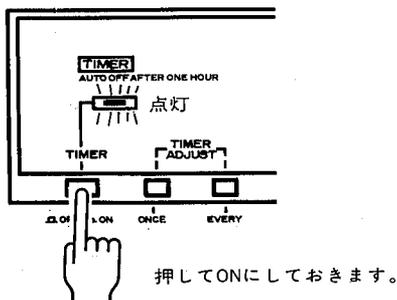
押して時間を合わせます。
- ③

または 押して分を設定します。

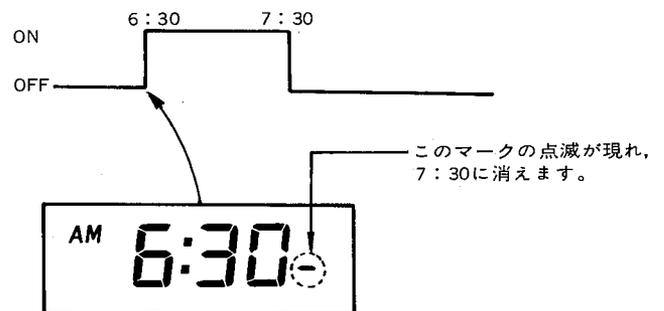
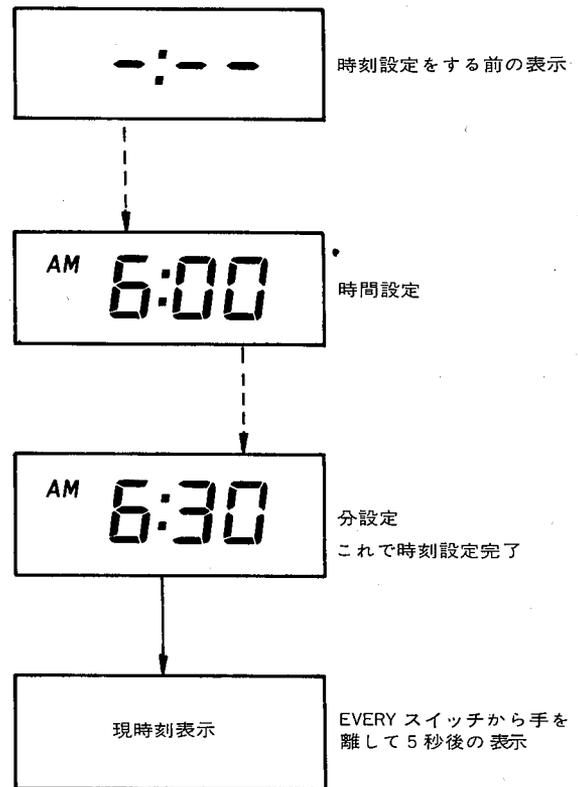
④ EVERYスイッチから手を離します。

これでEVERYタイマーの設定が終了です。同じ要領でご使用になるEVERYタイマーを設定してください。この設定内容は、つぎに別な設定をするまで変わりません。したがって毎日同じ操作を繰り返します。

EVERYタイマーの実行



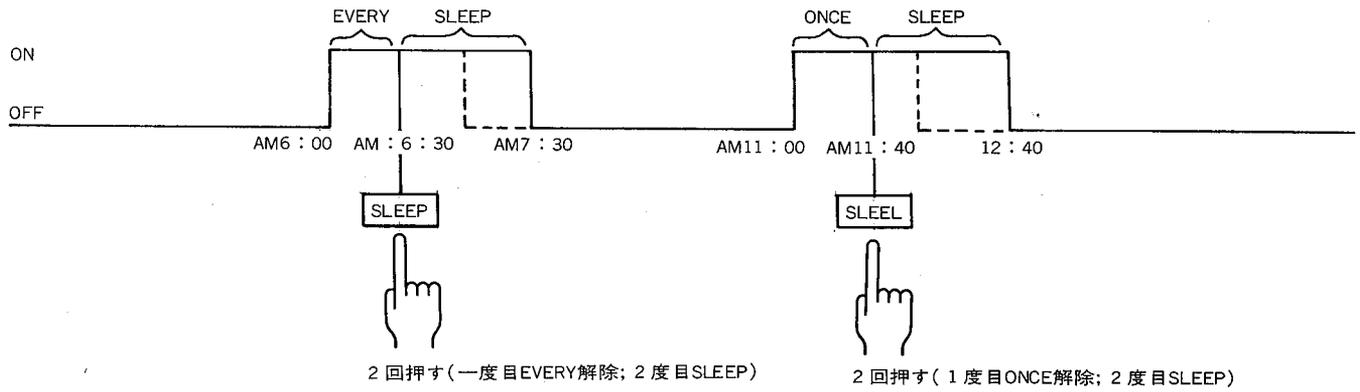
ディスプレイ



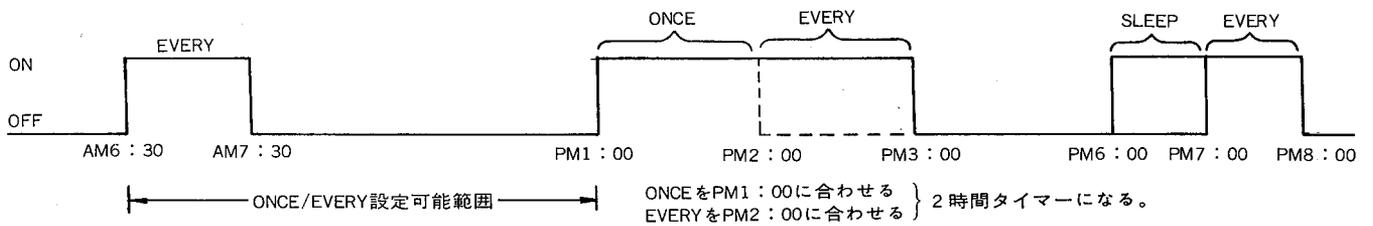
これを忘れずと、EVERYタイマーが実行されません。

SLEEP/ONCE/EVERY タイマーの組合せ使用例

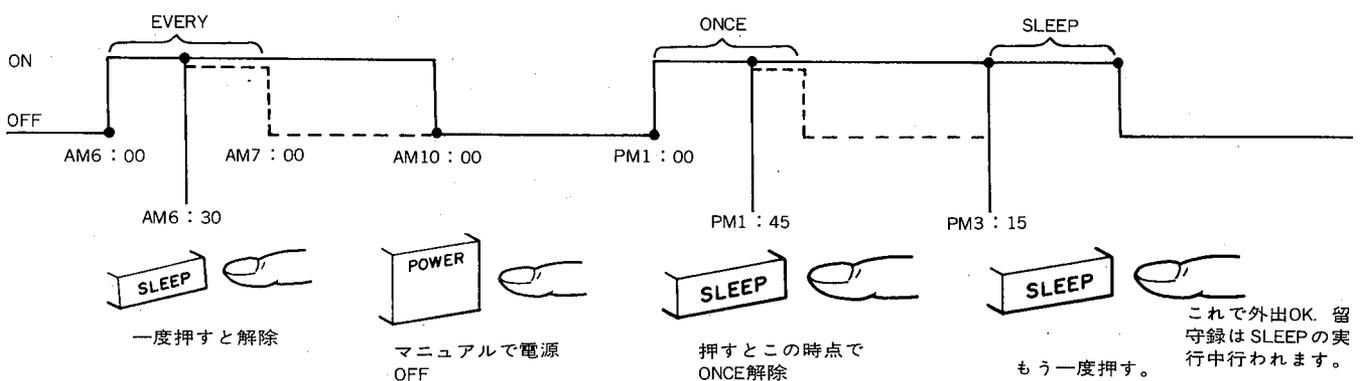
(例1) ONCE/EVERYタイマーの実行時間を延長したい場合 (SLEEPの応用)



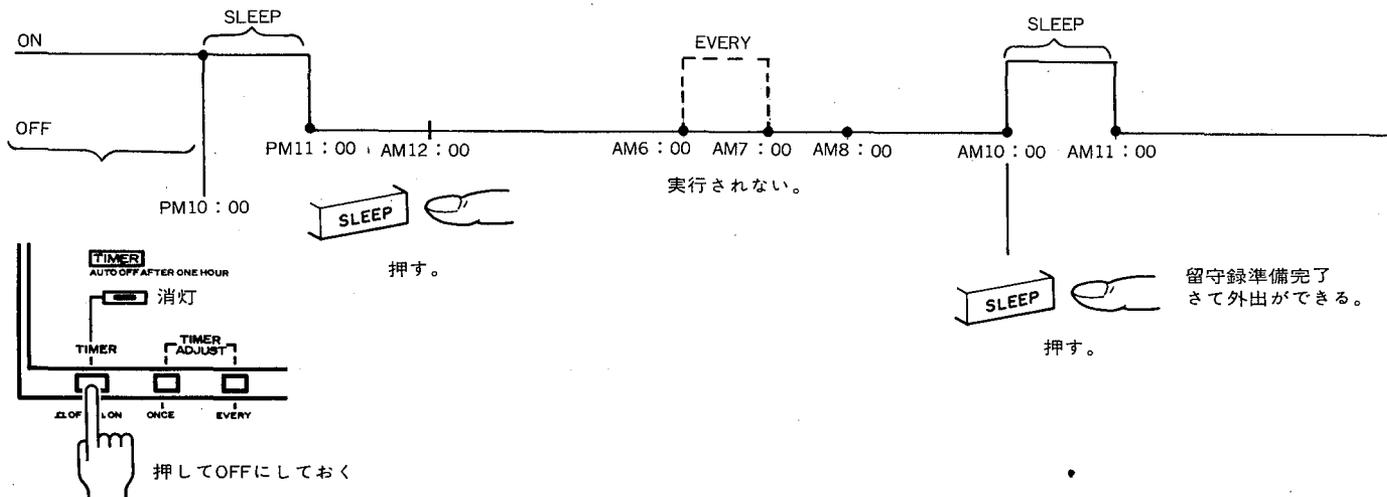
(例2) 2時間のタイマー操作をしたい場合



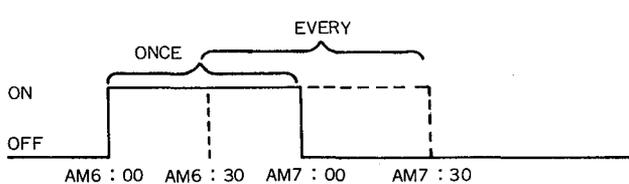
(例3) ONCE/EVERYタイマーの実行を途中で解除したい場合



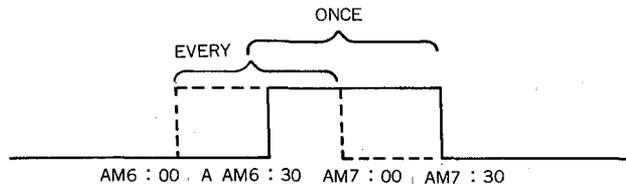
(例4) EVERYタイマーを解除しておくには(休日などで目覚しが不要のとき)



(例5) ONCE/EVERYタイマーの設定が一部分重なった場合

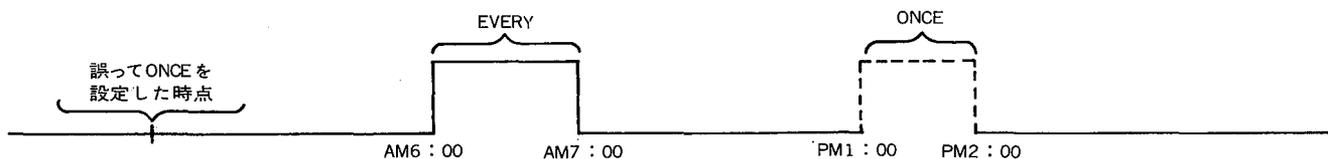


A) ONCEとEVERYタイマーを上図のように一部分重って設定した場合、ONCEは実行されますがEVERYはされません。



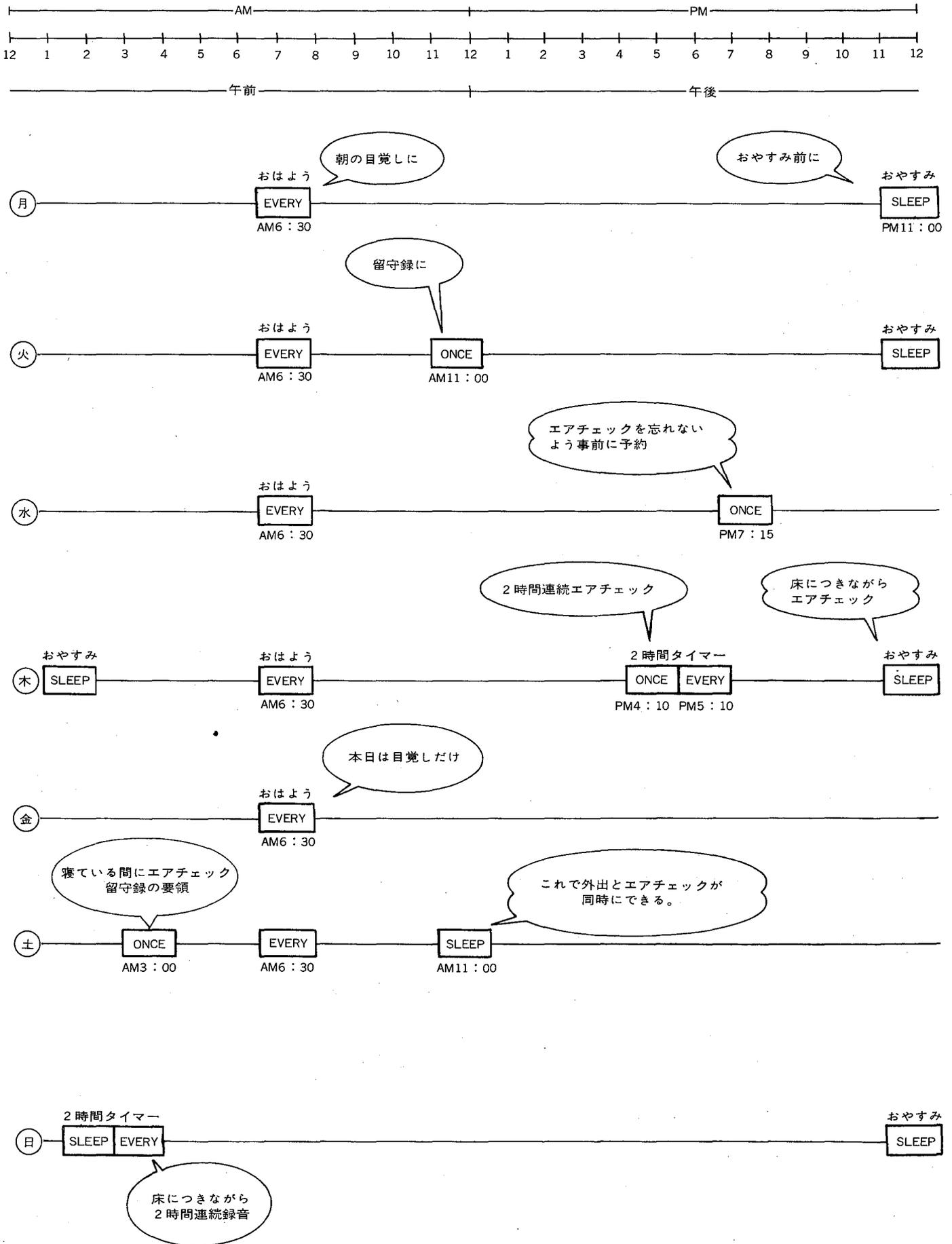
B) ONCEとEVERYタイマーを上図のように一部分重って設定した場合、ONCEは実行されますがEVERYはされません。

(例8) EVERYタイマーが実行される前に、意図しないONCEタイマーをEVERYタイマーの後に設定しまった場合

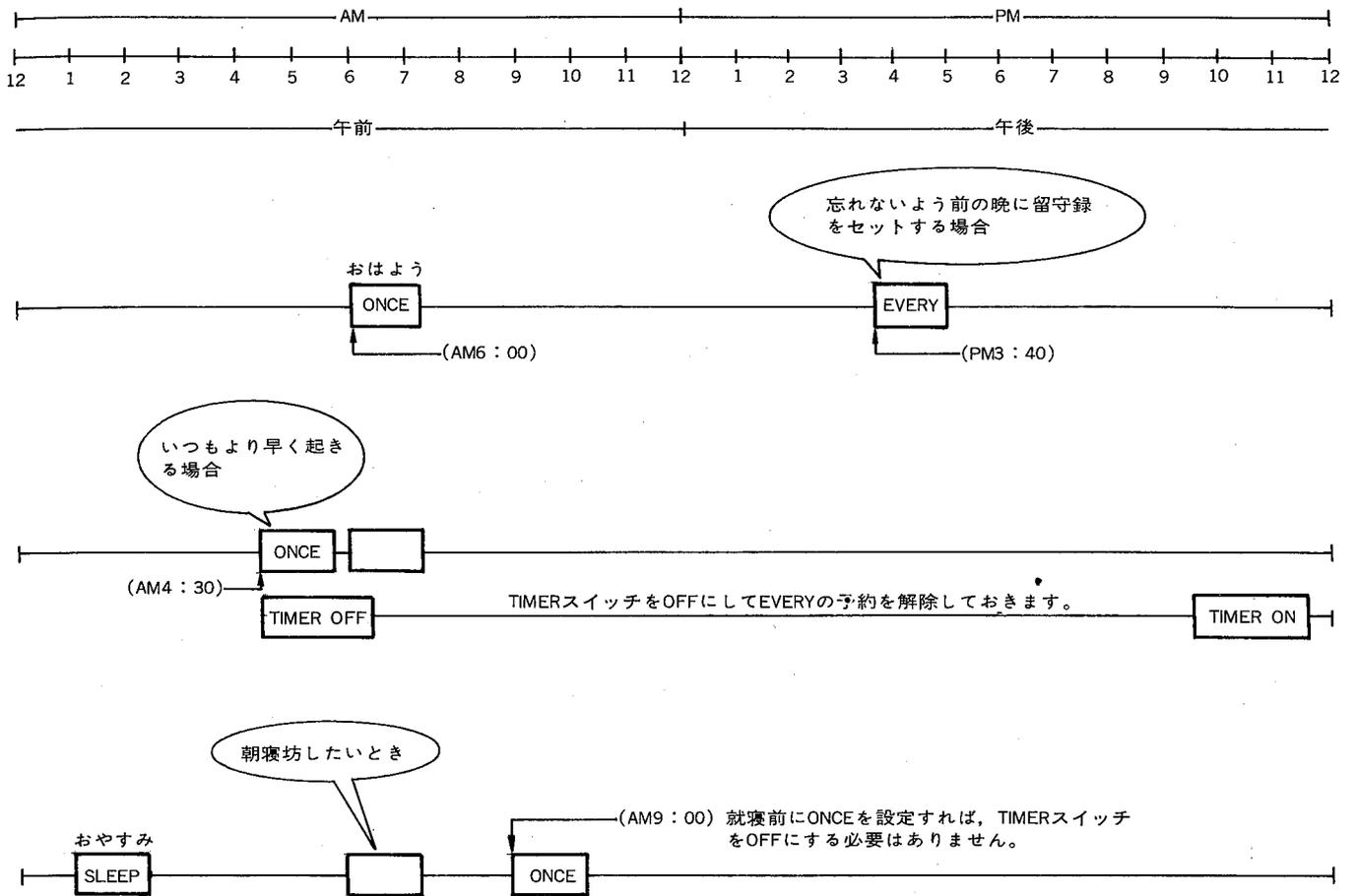


このままだとEVERYタイマーは実行されません。この場合ONCEタイマーの設定をEVERYの設定と同じAM6:00に合わせてください。

タイマーのいろいろな利用法 (1)

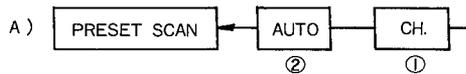


(2)



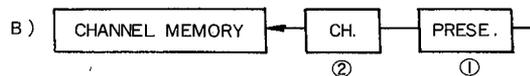
パネル表示について

下図のパネル表示が示す意味

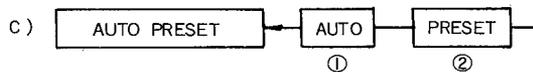


①のFM CHANNELまたはAM CHANNEL キーを押したまま②のAUTOキーを押すことを意味しています。この操作を行いますと右図のようにプリセットスキャン動作（プリセットした内容の自動検索）が始ります。

例えば4番目のプリセット局で止めたいときは、マーカー（)が4に位置している間に使用しているFM CHANNELかAM CHANNEL キーを押してください。スキャンが4で停止します。



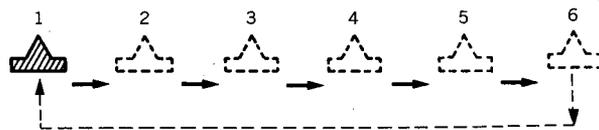
受信中の局をプリセットしておきたい場合、①のPRESETスイッチを押したまま②のFM CHANNELまたはAM CHANNEL キーを押すことを意味しています。



オートプリセットする場合、①のPRESETスイッチを押したまま②のAUTOキーを押すことを意味しています。この操作を行いますと、受信中の局を1にメモリーして、自動的に6までメモリーが終了すると1で停止します。

このようにA), B), C) のパネル表示の意味をよく理解しておきますと、取扱説明書が手元にない場合でもこれらの複合操作を簡単に知ることができますので便利です。

プリセットスキャン



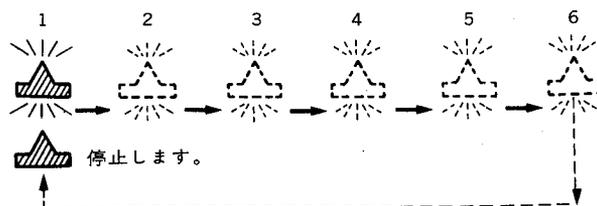
各チャンネルが約5秒間ディスプレイされて次に移ります。これを繰り返します。

チャンネルメモリー



たとえばプリセットしたい局を4番目にメモリーするには、PRESETスイッチを押したままFM CHANNELかAM CHANNEL キーでマーカーを4に合わせます。PRESETスイッチを離しますとマーカーの点滅が停止してメモリーが完了します。

オートプリセット



故障と思われる症状ですが

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせ、もう一度チェックしてみてください。
 案外、簡単なミスや勘違いをしたり、ちょっとしたお手入れで直ることが多いものです。

	症 状	原 因	処 置
FM、AMの両方のときに起る	音が出ない。	アンプとの接続が正しくない。 または、スイッチ類の位置が正しくない。 アンテナをつないでいない。または、はずれている。	接続、位置を確かめる。取扱説明書で確認をする。 接続を確かめる。
	AM/FM CHANNEL キーを押しても受信できない。	間違った周波数をメモリーしてある。	正確な周波数をメモリーする。
	自動選局のとき、AUTOキーを押しても聞きたい局の周波数で止まらない。	電波が弱い。	マニュアルで選局する。 “マニュアル選局のしかた”参照。
	放送が受らない。	受信可能な放送局の周波数になっていない。 TUNEランプが点灯していない。	PRESETボタンで周波数を確認して、TUNINGキーで正しく選局します。 MODEボタンをMONO/MUTE OFFのセッティングにしてみる。 アンテナの設置場所、高さ、方向を変えてみる。
	雑音が多い。	他の電気器具から雑音を拾っている。(蛍光灯、冷蔵庫、テレビ、トランシーバーなど) アンテナ端子の接続がはずれかかっている。 または、アンテナの向きや設置場所が悪い。 フィーダー線が不要な電波や雑音を拾っている。	チューナーやアンテナのリード線を雑音源から離すか、雑音源のそばで使わない。 接続や向き、設置場所をチェックする。 同軸ケーブルに変える。
音がひずむ。	アンテナの向きや設置場所が悪い。 1本のアンテナを2台以上のチューナーやテレビに共用している。	向きや設置場所をチェックする。 分配器を使う。	
FMのときだけ起る	ザーツという連続音が放送とともに入る。 ステレオにすると大きくなる。	アンテナ端子に入ってくる電波が弱いため。	FM専用アンテナを屋外に設置する。 放送局から遠距離にあたる場所ではFM専用アンテナ(5~8素子)が必要。
	バリバリ、ガリガリ、という雑音が入るときき入る。	自動車によるイグニッション・ノイズ。 電波の弱いところほど大きくなる。	FM専用アンテナを屋外に設置し、なるべく道路から離れた場所にアンテナの位置を定める。
	スピーカーの左側のみに音を出しているとき、わずかに右側にもれている。	クロストークと呼ばれるもので、わずかにでるのは正常。	右側のもれが左側の音にくらべてわずかであれば故障ではない。
	ステレオインジケーターが点滅する。	アンテナ端子の接続がはずれかかっている。 または、アンテナの向きや設置場所が悪い。 周波数の表示が放送局の周波数に合っていない。 電波が弱い。	しっかりつなぐ。 向きや設置場所をチェックする。 正確な周波数に合わせる。 MODEスイッチを押してMONO/MUTE OFFにする(モノラル、ミュートOFF)。
FMステレオ時ステレオインジケーターがつかない。	極端に電波が弱い場合。 MODEスイッチがMONO/MUTE OFFになっている。	FM専用アンテナを屋外に設置する。 AUTO/MUTEにする。	
AMのときだけ起る	ジーツという連続音が入る。とくに夜や感度の弱い局ほど大きい。	電気器具による雑音や空電という雑音が入る。	屋外にAM用の長さ10mぐらいのアンテナを設置し、アースを完全に取れば減少しますが、完全にとりのぞくことはむずかしい。
	放送に合わせたときだけブーンというハム(同調ハム)が入る。	電源の差込みの方向ででることがある。 地区的にやむをえないものが多い。	電源コードの位置を調整する。アンプの電源差込みを逆にする。 高圧線や100V電源の状態で特定の局にだけでるのはやむをえない。
	チーツ、ツーツという高い連続音が入り、大きくなる。	テレビから出る雑音。 AM放送局同志の干渉による9kHzのビート音。	テレビを消してみる(近所のテレビの影響を受けていることもある)。 セットの方でこれを取りのぞくことは不可能で、AM放送方式の弱点です。

	症 状	原 因	処 置
タイマーのとき起る	時計表示が点滅し始めた。	電池が消耗している。	電源コードを抜き、新しい電池と交換してください。
	EVERY タイマーをセットしたのに実行しなかった。	A Mと P Mをまちがえて設定。 TIMERスイッチがOFFポジションだった。 ONCEタイマーに時刻がセットしてある。	EVERYスイッチを押してタイマー時刻を確認。 ONポジションにしてLEDが点灯するのを確認。 ONCE スwitchを押してタイマー時刻を確認、解除したい時は現時刻の1分後又はEVERYタイマーと同じ時刻に設置してください。
	急に電源がオフになった。	タイマーが働いていた、例えばSLEEPスイッチで電源をONした。	POWERスイッチで電源を入れます。
	タイマー動作中に、TIMERスイッチをOFFにしても、タイマー中止にならない。	誤操作	タイマーを中止する時はSLEEPスイッチを押してください。

チューナーでは故障かな?と思われる症状の原因の大半がアンテナとそのリード線にあるようです。
アンテナとリード線は定期的に点検するようにしましょう。

定 格

これらの定格およびデザインは技術開発に伴い予告なく変更になることがあります。

〔FMチューナー部〕

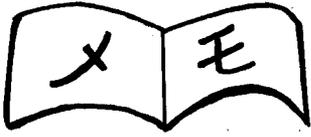
受信周波数範囲	76.0MHz~90.0MHz
アンテナインピーダンス	75Ω不平衡
感度 (IHF)	75Ω0.95μV, (10.8dBf)
SN比50dB感度 (75Ω)	MONO1.8μV, (16.4dBf)
	STEREO23μV, (38.4dBf)
高調波ひずみ率 (100%変調)	
MONO	100Hz0.07%
	1kHz0.07%
	6kHz0.10%
	50Hz~10kHz0.10%
STEREO	100Hz0.15%
	1kHz0.09%
	6kHz0.15%
	50Hz~10kHz0.3%
SN比 (100%変調, 65dBf入力)	
MONO80dB
STEREO74dB
キャプチャーレシオ1.0dB
実効選択度 (IHF: ±400kHz)60dB
ステレオセパレーション	
	1kHz50dB
	50Hz~10kHz40dB
	15kHz36dB
周波数特性 (30Hz~15kHz)+0.2dB, -1.0dB
イメージ妨害比 (84MHz)90dB
IF妨害比 (84MHz)100dB
スプリアス妨害比 (84MHz)100dB
AM抑圧比70dB
サブキャリア抑圧比55dB
出力レベル及び出力インピーダンス	
	FM: 1kHz, 100% Dev.0.75V/3.3kΩ

〔AMチューナー部〕

受信周波数範囲	522kHz~1611kHz
感度 IHF10μV
ループアンテナ300μV/m
SN比 (30%変調, 1mV入力)52dB
高調波ひずみ率 (1,000kHz)0.5%
選択度 (IHF)30dB
出力レベル及び出力インピーダンス	
	(400Hz, 30% Mod.)0.25V/3.3kΩ

〔電源部, その他〕

電源電圧・電源周波数100V, 50/60Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示)9.8W
電源コンセント(電源スイッチ連動, タイマー動作)1個/500W
寸法幅440×高さ74×奥行324(mm)
重量正味 4.0kg
	梱包込み 5.0kg



A series of horizontal lines for writing, consisting of 20 lines.



TRIO

■アフターサービスのお問合せは、購入店または最寄りの当社サービスセンター、営業所をご利用ください。
その他商品に関するお問合せは、お客様相談室をご利用ください。 電話 (03) 477-5515

■トリオ株式会社／トリオ商事株式会社
本社 東京都渋谷区渋谷 2-17-5 シオノギ渋谷ビル 〒150 電話 (03) 477-5511

© 1981・9 PRINTED IN JAPAN

B50-3483-00(G)

ご注意

本取扱説明書の一部に説明不足の部分がありましたので、下記のように補足致します。尚、取扱説明書と併用してください。

頁10

●オート（自動）チューニング（FM/AM）のしかた

手順：

1. POWERスイッチを押込みます。
2. FMチューニングの場合はFM CHANNELキーを押します。AMの場合は、AM CHANNELキーを押します。ディスプレイがすでに希望チャンネルにセットされていれば、この手順をはぶき、手順3を行います。
3. 受信しようとする放送局の周波数が表示周波数より低い周波数域にあるときは、DOWNキーを押して次にAUTOキーを押します。
逆に、表示周波数より高い周波数域にあるときは、UPキーを押して次にAUTOキーを押します。

頁12

手動プリセットのしかた（FM/AM）

（例：FM A局をメモリー1にプリセットする場合）

手順：

1. POWERスイッチを押込みます。
2. プリセットしようとするチャンネルFM CHANNELのキーを押します。すでにFMにセットされていれば、この手順をはぶき、手順3を行います。
3. オートチューニングの項(頁10)手順3の要領で希望局Aを受信します。
4. PRESETスイッチを押したまま手順5を行ってください。
5. FM CHANNELキーを押してプリセットマーカーを1に合わせます。
(このプリセットマーカーは、FM/AMのCHANNELキーを押すたびに、1から2、2から3……6へと移りますので、必要な回数キーを押して任意の数字にマーカーを合わせます。たとえば、4にプリセットするときには、PRESETスイッチを押したままプリセットマーカーが4に合うまでFM/AM CHANNELキーを押します。)
6. PRESETスイッチから手を離しますと、プリセットマーカーが短かく点滅してメモリー1へのプリセットが終わったことを表示します。
C, D, F, H, Iの放送局をそれぞれプリセットメモリー2, 3, 4, 5, 6にプリセットするには、同じ要領で手順3～6を繰返えします。
尚、AMプリセットの場合は、AM CHANNELキーを使用して、FMプリセットの要領で行います。

プリセット局の受信方法（FM, AM）

FM受信の場合：FM CHANNELキーを押して、受信したいプリセット局の数字にプリセットマーカーを合わせます。

AM受信の場合：AM CHANNELキーを押して、受信したいプリセット局の数字にプリセットマーカーを合わせます。